

令和 6 年度

年間授業計画

教科

理科

科目

化学基礎

教科：理科

科目：化学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：	A組 西田 喜肥 B組 西田 喜肥 C組 西田 喜肥 D組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥 E組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥 F組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥 G組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥
使用教科書：	化学基礎academia（実教出版） 副教材：リードLight 化学基礎（数研出版）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	単 元 1 1章 物質の構成	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	・物質の構成粒子や量の関係に関する基本的な概念、熱運動と物質の三態との関係について理解し、知識として身につけている。	身近な物質を構成している成分の分析	・物質の構成粒子や数量に関する基本的な知識が身についている。代表的な物質について、分子運動と三態の関係を理解しているか。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	・電子の状態と物質の性質が推察でき、状態変化と構成粒子の分子運動との関係、周期表の活用が出来る。	教科書	・電子の状態と性質の相関が分かるか。物質の状態変化と熱運動の関係を論理的、総合的に判断できるか。周期表の活用が出来るか。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	・物質に関心をもち、物質の構成粒子や物質の状態変化の現象について粒子の運動と関連付けて探究しようとしている。	QRコード 読み取り	・物質に関心をもち、物質の構成粒子や状態変化の現象について、粒子の運動と関連づけられているか。				
	単 元 2 2章 物質と化学結合	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	・物質の構成粒子の違いによる結合・結晶の差異、結合の違いによって性質の差異ができることを理解している。	結晶による性質の違い	・結合・結晶の差異を、物質の構成粒子の違いによるものと理解し、代表的な物質を例示できるか。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	・それぞれの物質の性質を結合と関連付けて考えることができる。	教科書	・代表的な物質の性質を、結合の違いによって区別し、説明することが出来るか。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	・結合とその結晶について、構造・接合の仕方・性質の違い・活用方法の違い等を日常の事象と関連付けて探究しようとする。	実験	・身近な物質について、結合によって区別し、性質や利用例を関連づけて探究しようとしているか。				
	定期考査（第1学期中間考査）/返却と解説						
	単 元 3 3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	・化学式、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけ、物質量の概念を用いて、化学変化の量的関係を把握できる。	量的関係の理解	・化学式を使用し、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけ、化学変化の量的関係を理解しているか。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	・原子量・分子量・式量と物質量の定義・計算を理解し、化学変化に量的関係があることを考察し、的確に表現できる。	教科書	・原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができるか。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	・代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察し、意欲的にそれらを探究しようとする。	実験	・代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察しようとしているか。				
	定期考査（第1学期期末考査）/返却と解説						
	単 元 4 3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	・化学式、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけ、物質量の概念を用いて、化学変化の量的関係を把握できる。	量的関係の理解	・化学式を使用し、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけ、化学変化の量的関係を理解しているか。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	・原子量・分子量・式量と物質量の定義・計算を理解し、化学変化に量的関係があることを考察し、的確に表現できる。	教科書	・原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができるか。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	・代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察し、意欲的にそれらを探究しようとする。	実験	・代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連づけて考察しようとしているか。				
	定期考査（第1学期期末考査）/返却と解説						

令和 6 年度

年間授業計画

教科

理科

科目

化学基礎

教科：理科

科目：化学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：	A組 西田 喜肥 B組 西田 喜肥 C組 西田 喜肥 D組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥 E組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥 F組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥 G組 西田 喜肥 西田 喜肥 西田 喜肥
使用教科書：	化学基礎academia（実教出版） 副教材：リードLight 化学基礎（数研出版）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
2 学 期	単 元 5 3章 物質の変化 2節 酸と塩基	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	・酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基反応を捉え、中和滴定の量的関係を理解している。	中和滴定	・酸・塩基の定義を理解し、中和滴定の量的関係を理解しているか。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	・酸・塩基の観察、実験をもとに共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基反応を考察できる。	教科書	・酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基反応を考察できるか。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	・酸・塩基や中和反応に関心をもち、身近な現象と酸・塩基反応を関連づけて意欲的に探究しようとする。	実験	・酸・塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連づけて意欲的に探究しようとするか。				
	単 元 6 3章 物質の変化 3節 酸化還元反応	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	・電子や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し金属のイオン化傾向と反応性の違いを理解し、実用電池への利用を知っている。	金属の反応性の違い	・電子や酸化数で酸化還元反応を理解し酸化剤、還元剤の反応が分かるか。金属のイオン化傾向と反応性の違いを理解しているか。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	・酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。	教科書	・酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、酸化還元反応として論理的に考察できるか。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	・燃焼、金属の溶解、実用電池の利用に興味をもち、身近な現象と酸化還元反応を関連づけて意欲的に探究しようとする。	実験	・燃焼、金属の溶解、実用電池の利用に興味をもち、それらの共通性を意欲的に探究しているか。				
	定期考査（第2学期中間考査）/返却と解説						
	単 元 7 総まとめ	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	・化学基礎で学んだ様々な知識が身についている。	総まとめ	・化学基礎で学んだ様々な知識が身についているか。				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	・化学基礎で学んだ様々な知識や傾向、関係性を理解し言語化できる。	教科書	・化学基礎で学んだ様々な知識や傾向、関係性を理解し言語化できるか。				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	・化学基礎で学んだ様々な知識や傾向、関係性を、身近な事象に結び付けようとする。	QRコード 読み取り	・化学基礎で学んだ様々な知識や傾向、関係性を、身近な事象に結び付けようとしているか。				
	単 元 8	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（第2学期期末考査）/返却と解説						

令和 6 年度

年間授業計画

教科

理科

科目

化学基礎

教科：理科

科目：化学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年

教科担当者：	A組 西田 喜肥 B組 西田 喜肥 C組 西田 喜肥 D組 西田 喜肥 E組 西田 喜肥 F組 西田 喜肥 G組 西田 喜肥
使用教科書：	化学基礎academia（実教出版） 副教材：リードLight 化学基礎（数研出版）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、現象などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
3 学 期	単 元 9	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・ 指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・ 教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・ 一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	単 元 10	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・ 指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・ 教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・ 一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	単 元 11	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・ 指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・ 教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・ 一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	単 元 12	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
	【知識及び技能】	・ 指導事項	【知識及び技能】				
	【思考力、判断力、表現力】	・ 教材	【思考力・判断力・表現力】				
	【学びに向かう力、人間性等】	・ 一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
	定期考査（学年末考査）/返却と解説						